

CES 2026 総合調査報告書: NVIDIAと Siemensが主導する「物理AI」革命とその産業的・市場的影響に関する包括的分析

Gemini 3 pro

1. エグゼクティブサマリー

2026年1月、米国ラスベガスで開催されたCES 2026は、テクノロジー産業の歴史において極めて重要な転換点として記録されることになった。過去数年間、生成AI(Generative AI)がデジタル空間におけるテキストや画像の生成能力で世界を席巻してきたが、2026年のCESにおいて、その焦点は明確に「物理AI(Physical AI)」へと移行した。このパラダイムシフトを主導したのは、AIコンピューティングの覇者であるNVIDIAと、産業オートメーションの巨人であるSiemensである。本報告書は、両社の基調講演(NVIDIA:1月5日、Siemens:1月6日)の内容を微に入り細にわたって分析し、発表された技術の詳細、市場の反応、そしてこれらが示唆する産業界の未来像を15,000語にわたり包括的に記述するものである。

NVIDIAのジェンソン・ファンCEOは、次世代AIプラットフォーム「Vera Rubin」の量産開始を宣言し、推論コストの劇的な低減と処理能力の飛躍的向上を提示した。これは、AIが「高コストな実験」から「社会実装の基盤」へと移行するための経済的合理性を提供するものである¹。同時に、ロボット工学や自動運転といった物理世界を操作するためのAIモデル「Cosmos」や「Alpamayo」を発表し、デジタルとフィジカルの境界を溶解させる戦略を鮮明にした³。

翌日、Siemensのローランド・ブッシュCEOは、NVIDIAとの提携を「産業用AIオペレーティングシステム」の構築へと昇華させると発表した。新製品「Digital Twin Composer」は、製造業やインフラ管理において、物理的な施工前に仮想空間で完全な最適化を行う「産業メタバース」を実用段階へと押し上げるものであり、PepsiCoなどのグローバル企業での劇的な成果(スループット20%向上、設備投資15%削減)がその有効性を証明した⁴。

市場の反応は複雑かつ示唆に富むものであった。NVIDIAの株価は、圧倒的な技術的優位性を示しながらも、短期的な材料出尽くし感から「事実で売る」動きが見られた一方で、Siemensの株価は産業AIという新たな成長ドライバーへの期待から過去最高値を更新する動きを見せた⁶。アナリストたちは、AI需要が依然として「急騰(Skyrocketing)」しており、物理AIへの投資が次の10年を牽引する長期トレンドであるとの見方で一致している⁷。

本報告書では、これらの動向を単なるニュースの羅列ではなく、技術的仕様の深層、産業構造への影響、そして金融市場の評価という多角的な視点から分析し、2026年以降の世界がどのように変容していくのかを詳らかにする。

2. 序論: AIの進化における「物理的転回」

CES 2026の会場全体を覆っていた空気は、これまでの「AIが何を作れるか(生成)」という問いから、「AIが世界をどう動かせるか(物理作用)」という問いへの劇的なシフトであった。CTA(全米民生技術協会)のゲイリー・シャピロCEOが開幕宣言で述べたように、AIはもはや単なる機能層(Feature Layer)ではなく、消費者向けデバイス、モビリティ、産業システム、ロボット工学を結びつける組織原理となっている⁹。

この文脈において、NVIDIAとSiemensの基調講演は、相互補完的かつ不可分な関係にある。NVIDIAは、物理世界を理解し推論するための「脳」と「神経系(インフラ)」を提供し、Siemensはその脳が働きかける「身体(工場、インフラ、機械)」とそのデジタル表現を提供する役割を担っている。両社の提携は、IT(情報技術)とOT(制御技術)の融合という長年の課題に対する、現時点で最も洗練された回答であると言える。

3. NVIDIA基調講演(1月5日): AIインフラの再定義と「物理AI」への跳躍

NVIDIAの創業者兼CEO、ジェンソン・ファンによる1月5日の基調講演は、テック業界全体の羅針盤としての地位を不動のものとした。彼は、AIバブル崩壊の懸念を一蹴し、AIインフラストラクチャの構築がまだ初期段階にあることを、圧倒的なハードウェアスペックとソフトウェアエコシステムの拡大によって証明した。

3.1 次世代プラットフォーム「Vera Rubin」の全貌

本講演の最大のハイライトであり、業界に衝撃を与えたのは、Blackwellアーキテクチャの後継となる次世代AIプラットフォーム「Vera Rubin」の詳細発表と、それが既に「完全な量産体制(in full production)」にあるという事実の公表であった²。天文学者ヴェラ・ルービンにちなんで名付けられたこのプラットフォームは、単なるGPUの更新ではなく、データセンター全体を一つの計算機として扱う「ラック・スケール」の設計思想が徹底されている。

3.1.1 6つのチップによる極限のコードデザイン

Vera Rubinプラットフォームは、6つの異なるチップを高度に統合(Extreme Co-design)したシステムである。これらは個別に機能するのではなく、相互に最適化され、ボトルネックを徹底的に排除するように設計されている¹¹。

1. **Rubin GPU:** 3nmプロセスで製造され、2つのダイを1つのパッケージに統合したデュアルダイ構成を持つ。トランジスタ数はBlackwellの1.6倍に達する¹²。
2. **Vera CPU:** Arm v9.2-Aアーキテクチャに基づく「Olympus」コアを88個搭載。NVIDIA独自の「空間マルチスレッディング(Spatial Multi-Threading)」技術により、1コアあたり複数のスレッドを

並列処理し、実質的に176コア相当のスループットを実現する²。

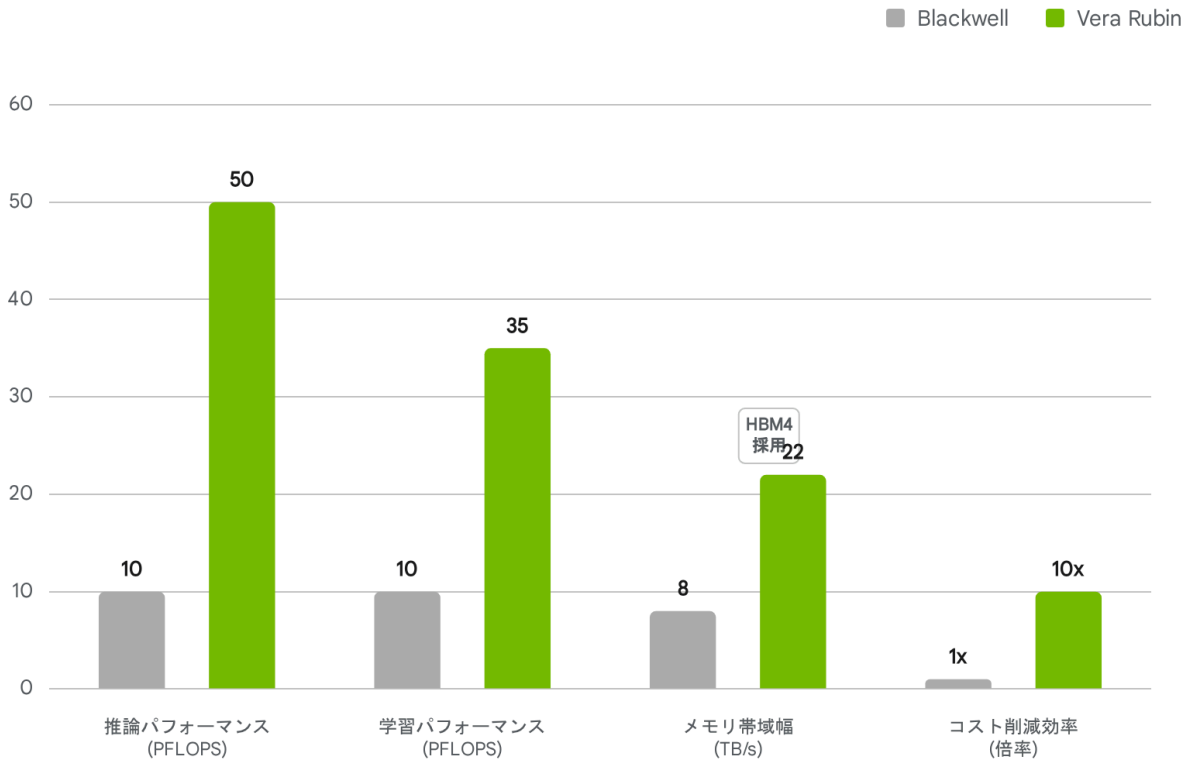
3. **NVLink 6 Switch:** GPU間の通信を担い、ラック全体で毎秒260TBという驚異的な帯域幅を提供する。これはインターネット全体の帯域幅を凌駕すると表現された¹³。
4. **ConnectX-9 SuperNIC:** 最大1.6Tb/sの通信速度を誇るネットワークインターフェースカード²。
5. **BlueField-4 DPU:** セキュリティとストレージ処理をCPU/GPUからオフロードするデータプロセッシングユニット。Grace CPUコアを内蔵し、前世代比で6倍の計算性能を持つ¹²。
6. **Spectrum-6 Ethernet Switch:** AIワークロードに最適化されたイーサネットスイッチ。

3.1.2 パフォーマンスと効率の飛躍

ジェンソン・ファンが提示したパフォーマンス指標は、既存のインフラを陳腐化させるほどのインパクトを持っていた。

- **推論性能:** Blackwellプラットフォームと比較して、NVFP4精度での推論性能は最大5倍(50 PFLOPS)に達する。これは、AIモデルが巨大化し、推論(実行)の需要が急増する中で、極めて重要な指標である²。
- **トレーニング性能:** 同じくNVFP4精度で、Blackwell比3.5倍(35 PFLOPS)のトレーニング性能を実現している¹²。
- **コスト効率:** 推論トークンあたりのコストを10分の1に削減すると謳われた。また、MoE(Mixture of Experts)モデルのトレーニングに必要なGPU数を4分の1に削減可能である¹¹。
- **メモリ帯域:** HBM4メモリの採用により、帯域幅は毎秒22TBに達する。これはBlackwellのHBM3e(毎秒8TB)の約2.8倍であり、大規模言語モデルの推論における最大のボトルネックであるメモリ帯域を劇的に改善する¹²。

世代的飛躍：NVIDIA Vera Rubin 対 Blackwell アーキテクチャ



Blackwellプラットフォームと新しく発表されたVera Rubinプラットフォームの主要パフォーマンス指標の比較。データは、エージェントAIワークロードをサポートするための推論効率とメモリ帯域幅への戦略的な焦点を示しています。

Data sources: [LiveMint](#), [Techzine](#), [Tom's Hardware](#), [ServeTheHome](#)

3.1.3 冷却と設置の革新

「Vera Rubin NVL72」ラックシステムは、冷却技術においても革新的である。システム全体がファンレス(Fanless)、チューブレス(Tubeless)、ケーブルレス(Cableless)で設計されており、100%液体冷却を採用している。これにより、データセンターの電力効率が大幅に向上するだけでなく、設置時間も劇的に短縮された。ジェンソン・ファンによれば、Blackwellベースのシステムでは2時間かかっていた設置作業が、Vera Rubinではわずか5分で完了するという²。これは、大規模データセンターの展開速度を加速させる重要な要素である。

3.2 「Physical AI」の実現：CosmosとAlpamayo

NVIDIAの戦略において、計算能力の向上と同等、あるいはそれ以上に重要視されたのが「Physical AI(物理AI)」へのアプローチである。これは、AIが画面の中のチャットボットから、現実世界を認識

し、判断し、動作する主体へと進化することを意味する。

3.2.1 Cosmos: 物理世界をシミュレートする基盤

ジェンソン・ファンは、物理AIのためのワールドファウンデーションモデル「Cosmos」を発表した。これは、物理法則(重力、摩擦、光の反射など)を正確に理解した上で、画像や3Dモデルからリアルなシミュレーション映像や環境を生成するフレームワークである¹。

従来、ロボットの学習には現実世界での膨大な試行錯誤が必要であったが、Cosmosを使用することで、仮想空間(Omniverse)内で何百万回ものシミュレーション(強化学習)を行うことが可能になる。NVIDIAはこのプロセスを「Compute is Data(計算こそがデータである)」と表現しており、計算リソースを合成データ(Synthetic Data)の生成に振り向けることで、データ不足の課題を解決しようとしている¹。Cosmosは既に数百万回ダウンロードされ、NVIDIA内部の自動運転技術開発の核心部分を担っている。

3.2.2 Alpamayo: 推論する自動運転AI

自動運転分野における最大の発表は、新しいAIモデル「Alpamayo」である。これは、従来の「認識→反応」という単純なプロセスを超え、「状況理解→推論→行動決定→説明」という高度な認知プロセスを実現する¹。

Alpamayoは、Vision-Language-Action(VLA)モデルを採用しており、複雑な交通状況や予期せぬインフラの故障(例: 信号機が消えている交差点での誘導員の指示)に対して、人間のように推論し、適切な行動をとることができる。さらに重要な点として、なぜその判断を下したのかを言語的に説明可能であるという特徴を持つ。これは、自動運転の安全性と信頼性を証明する上で不可欠な機能である¹⁴。

NVIDIAはこのAlpamayoを含むフルスタック技術をMercedes-Benzに提供しており、新型CLAが2026年第1四半期に米国で、続いて欧州・アジアでデビューする予定であることが明らかにされた¹⁴。これは、NVIDIAの技術が研究室レベルを超え、実際の市販車として公道を走る段階に入ったことを示している。

3.3 コンシューマー向け技術: GeForceとDLSS 4.5

産業向け技術が主役であったものの、NVIDIAの収益基盤の一つであるゲーミング市場に対しても、強力なアップデートが投入された。これらは、産業用AIで培われた技術がコンシューマー製品にも還元されていることを示している。

3.3.1 DLSS 4.5とMulti-Frame Generation 6X

AIによる超解像技術DLSS(Deep Learning Super Sampling)の最新版「DLSS 4.5」が発表された。

- 技術的進化: 第2世代のTransformerモデルを採用し、前世代比で5倍の計算能力を活用することで、より広範なコンテキスト情報を処理可能になった。これにより、ゴースト現象(移動物体の残像)やちらつきが大幅に低減され、画質と安定性が向上している¹⁵。
- 6倍フレーム生成: 特筆すべきは「Multi-Frame Generation 6X」機能である。これは、GPUがレンダリングした1フレームに対して、AIが最大5つの追加フレームを生成する技術であり、これにより4K解像度においても240fpsを超える滑らかなゲームプレイが可能になる¹⁵。
- 動的調整: 新たに導入された「Dynamic Multi Frame Generation」は、シーンの複雑さやGPUの負荷に応じて生成フレーム数を動的に調整し、画質と応答性のバランスを最適化する¹⁵。

- 提供形態: 超解像機能はRTX 20シリーズ以降の全ユーザーに即日提供される一方、6倍フレーム生成などの高度な機能は最新のRTX 50シリーズ専用として春にリリースされる¹⁷。

3.3.2 G-Sync Pulsar

モニター技術においても「G-Sync Pulsar」が発表された。これは可変リフレッシュレート(VRR)技術とストロボバックライト技術を高度に融合させたもので、360Hzのモニターにおいて実質1000Hz相当のモーションクラリティ(動きの鮮明さ)を実現すると謳われている¹⁸。eスポーツなどの競技性の高いシーンにおいて、視認性を極限まで高める技術として注目される。

4. Siemens基調講演(1月6日): 産業メタバースの実装

NVIDIAの翌日に行われたSiemensのローランド・ブッシュCEOによる基調講演は、NVIDIAが生み出した圧倒的な計算能力とAI技術を、いかにして現実の産業現場に適用し、利益を生み出すかという「実装論」に焦点が当てられた。Siemensのメッセージは明確であった。「AIはもはや実験ではない。産業のOSである」というものである。

4.1 産業用AIオペレーティングシステム (Industrial AI Operating System)

SiemensとNVIDIAは、両社の提携をさらに深化させ、「産業用AIオペレーティングシステム」を共同構築するという野心的なビジョンを掲げた²⁰。これは単一の製品ではなく、製品設計、エンジニアリング、製造、運用、サプライチェーンという産業のバリューチェーン全体にAIを組み込むための包括的なプラットフォームである。

両社の協力は以下の5つの主要分野で展開されることが明らかにされた²²。

1. **AIネイティブなチップ設計:** SiemensのEDA(電子設計自動化)ツールにNVIDIAのAI技術を統合し、次世代チップの開発速度を加速させる。
2. **GPUアクセラレーションによるシミュレーション:** 流体解析や構造解析などのシミュレーション負荷をCPUからGPUへ移行し、計算時間を劇的に短縮する。
3. **AI駆動の適応型製造(Adaptive Manufacturing):** 工場全体をソフトウェアで定義し、リアルタイムデータに基づいて自律的に最適化を行う製造システムの構築。
4. **AIデータセンターの設計:** 巨大化するAIデータセンター自体の設計・運用にデジタルツインを活用する。
5. **ツールチェーンの相互統合:** 両社のソフトウェアツールをシームレスに連携させ、開発者の利便性を向上させる。

この構想を図式化すると、現実世界のデータ(IoTセンサー、生産ライン)が吸い上げられ、デジタルツイン(Siemens Xcelerator + NVIDIA Omniverse)上の仮想空間へと送られる。そこでNVIDIAの計算資源(Vera Rubin)とAIモデル(Alpamayo, Cosmos)を用いたシミュレーションと最適化が行われ、その結果得られた最適解が制御命令として再び現実世界のロボットや制御システムへとフィードバックされる、という巨大なサイバーフィジカルループが形成されることになる。

4.2 Digital Twin Composer: メタバースへの入り口

Siemensはこのビジョンを具現化する製品として、「Digital Twin Composer」を発表した。2026年半ばにSiemens Xceleratorマーケットプレイスでリリース予定のこのソフトウェアは、産業メタバースへのアクセスを民主化するツールとして位置づけられている⁴。

4.2.1 機能と技術的背景

Digital Twin Composerは、Siemensが持つ物理的に正確なエンジニアリングデータと、NVIDIA Omniverseのリアルタイム3Dレンダリング・物理シミュレーション機能を融合させたものである。ユーザーは、製品、製造ライン、あるいは工場全体の仮想3Dモデルをドラッグ & ドロップで構築し、そこにリアルタイムの操業データを重ね合わせることができる。最大の特徴は「時間軸の操作」である。過去のトラブル発生時の状況を再生して原因を究明したり、将来のライン変更や天候変化が生産に与える影響をシミュレーションしたりすることが可能になる²⁰。

4.3 導入事例: PepsiCoとHD Hyundaiによる実証

Siemensの強みは、こうした先進技術を既に大手顧客の現場で稼働させている点にある。基調講演では、具体的な成果数値と共に導入事例が紹介された。

4.3.1 PepsiCo: スループット20%向上の衝撃

食品飲料大手のPepsiCoは、米国内の製造・倉庫施設のデジタルツイン化にDigital Twin Composerを先行導入した。

- 導入プロセス: 工場内のあらゆる機械、コンベア、パレットルート、作業員の動線を物理レベルの精度でデジタル空間に再現。そこにAIエージェントを放ち、何千通りものレイアウト変更やプロセス改善をシミュレーションさせた⁵。
- 成果: 物理的な設備変更を行う前に、デジタル上での最適化だけでスループット(生産量)を20%向上させることに成功した。さらに、無駄な設備投資を回避することでCapex(資本的支出)を10~15%削減し、潜在的な問題の90%を事前に特定・解消した⁴。これは、デジタルツインが単なる可視化ツールではなく、直接的な利益創出ツールであることを証明する事例である。

4.3.2 HD Hyundai: 造船のデジタル化

世界的な造船会社であるHD Hyundaiもまた、SiemensとNVIDIAの技術を活用している。巨大な船舶の設計から製造に至るプロセスをデジタルツイン化し、設計変更の手戻りを減らし、工期を短縮するためにOmniverseプラットフォームを活用していることが紹介された¹⁴。

4.4 産業用Copilotと労働者支援

Siemensはまた、生成AIを活用した「産業用Copilot」の拡充も発表した。新たに9つのCopilotが紹介され、これらは設計エンジニアのコード生成支援から、現場作業員への音声によるメンテナンス指示まで、幅広い業務をカバーする²⁶。

これにより、熟練工不足に悩む製造現場において、経験の浅い作業員でもAIの支援を受けて高度な業務を遂行できるようになる「労働者の拡張(Augmentation)」が実現されつつある。

5. 市場反響と詳細分析：期待と現実の狭間

NVIDIAとSiemensによる一連の発表は、技術的なマイルストーンとしては極めて高く評価されたものの、金融市場やアナリストの反応は多層的であり、現在のAI市場が置かれている複雑な状況を浮き彫りにした。

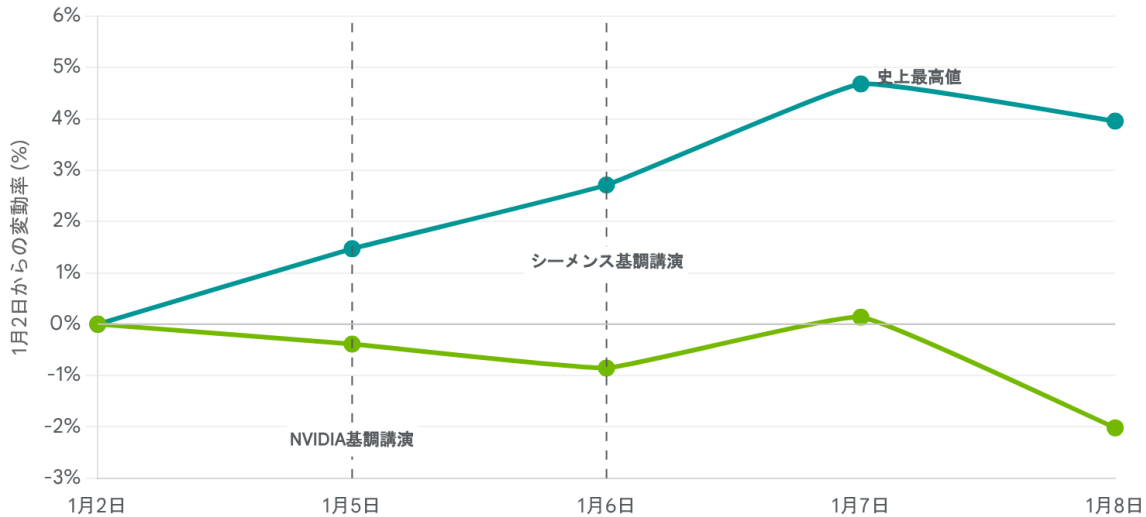
5.1 株式市場の反応：事実で売るNVIDIA、ブレイクアウトするSiemens

CES開催週の株価動向は、投資家の心理を鮮明に映し出した。

- **NVIDIA (NVDA):** 基調講演で発表された内容は圧倒的であったにもかかわらず、株価は軟調に推移した。1月5日の基調講演直後から、いわゆる「ニュースで売る(Sell the news)」動きが優勢となり、株価は1月5日の188.12ドルから1月8日には185.04ドルへと下落・横ばいで推移した²⁷。
 - 要因分析: 市場の一部には、AIインフラへの過剰投資(バブル)懸念が根強く残っている。また、NVIDIAが強調した「推論コストの10分の1への削減」が、長期的にはNVIDIA自身のハードウェア販売単価や利益率に下押し圧力となるのではないかという警戒感も一部で囁かれた²⁸。しかし、これは「より多くの普及を促すための価格弾力性」を狙った戦略的値下げであり、総需要の拡大がそれを補って余りあるという見方が長期的には優勢である。
- **Siemens (SIE):** 対照的に、Siemensの株価は力強い上昇を見せた。産業AIという具体的な成長ストーリーが好感され、1月7日には252.75ユーロという過去最高値を記録した⁶。これは、AIの恩恵がチップメーカーだけでなく、それを活用する産業コングロマリットへと広がり始めていることを示唆している。
- **サプライヤーへの波及:** NVIDIAがVera RubinでHBM4メモリを採用することを明言したため、主要サプライヤーであるSamsung ElectronicsとSK Hynixには強い買いが入った。特にSamsungは、HBM4におけるNVIDIAの「唯一の消費者」としての地位を確立しつつあることが好感され、ソウル市場で7.5%急騰した¹⁴。

市場反応：NVIDIA対シーメンスの株価パフォーマンス（2026年CESウィーク）

● NVIDIA (NVDA) ● シーメンス (SIE)



2026年CESウィーク中のNVIDIAとシーメンスの相対的な株価パフォーマンス（1月2日を基準とした騰落率）。産業用AIの発表を受けてシーメンスが史上最高値を更新した一方、NVIDIAは強力な製品発表にもかかわらず調整局面を迎えました。

データソース：Nasdaq, Trading Economics

5.2 アナリストの評価：長期的強気トレンドの再確認

短期的な株価変動にかかわらず、主要な金融機関のアナリストたちは、今回の発表がAI産業の長期的な成長を裏付けるものであるとして、強気の評価を崩していない。

- **Morgan Stanley (Joseph Moore):** 基調講演を「決定的にポジティブ (decidedly positive)」と評価。特にVera Rubinプラットフォームについて、「性能の基準を再び引き上げた」と称賛した。また、NVIDIA経営陣が需要について「急騰している (skyrocketing)」と表現し、供給や需要に関して一切の「ヘッジ (言葉を濁すこと)」をしなかった点に注目し、AI投資サイクルの強さを再確認した⁷。目標株価はコンセンサス並みの250ドルを維持している²⁹。
- **Raymond James:** NVIDIAに対し「Strong Buy (強い買い)」を継続し、目標株価を272ドルに設定した。これは現在の株価水準から40%以上の上昇余地を見込むものであり、特に「物理AI」への投資が今後10年間の成長を支える長期トレンドであると分析している⁸。
- **Bank of America:** AIコンピューティングにおけるNVIDIAのリーダーシップは揺るぎないとし、「Buy」評価を継続した⁸。

5.3 メディアによる表彰 (Best of CES 2026)

CESの華であるアワードにおいても、両社の技術は高く評価された。一般的にCESアワードは目に見えるガジェットに授与されがちであるが、今回はインフラ技術や産業ソリューションが受賞リストに名を連ねたことが特徴的である。

- **TechRadar:** NVIDIAの「Rubin」プラットフォームを「Best AI Tech」部門で選出した。「世界で最も利益を上げている企業の最大の発表」であり、トークンコストの削減が全人類にとって重要であると評価した³⁰。
- **Engadget:** 直接的な受賞ではないものの、「Subtle Voicebuds」などの受賞製品の背後にあるAIハードウェアとしてNVIDIAの存在感に言及している³¹。
- **CNET & その他:** Siemensの「Digital Twin Composer」は、派手なコンシューマー製品ではないものの、PepsiCoとの提携による具体的な成果が評価され、B2Bテクノロジーのハイライトとして多くのメディアで取り上げられた²⁰。

6. 考察: 2026年以降の産業展望と「物理AI」の地政学

6.1 「トレーニング」から「推論」へ: コスト構造の破壊

NVIDIAがVera Rubinで「推論コストの10分の1削減」を強調したことは、AI産業のフェーズが変わったことを示唆している。これまでの数年間は、巨大なモデルを作るための「トレーニング(学習)」競争であった。しかし2026年以降は、作ったモデルを使って実際にサービスを提供し、収益を上げる「推論(実行)」のフェーズに入る。

自動運転車やロボットは、クラウドに接続して悠長に回答を待つわけにはいかず、エッジ側で常時、低遅延で推論を行い続ける必要がある。NVIDIAはこの需要爆発を見越し、推論効率に特化したアーキテクチャへと舵を切ったのである。これは、GoogleやAmazonなどが開発する自社製チップ(ASIC)に対する強力な牽制球ともなる。

6.2 産業用OSの覇権争い

SiemensとNVIDIAの「産業用AIオペレーティングシステム」は、製造業におけるWindowsやAndroidのような地位を狙っている。PepsiCoやMercedes-Benzのような巨大企業がこのエコシステムに組み込まれたことは、他社にとっても追従せざるを得ない「デファクトスタンダード」化の圧力となる。日本の製造業にとっても、この動向は無視できない。HD Hyundaiが先行事例として紹介された一方、記事スニペットにおいて日本企業の大きな発表が目立たなかった点は懸念材料である。Siemensのプラットフォームに乗るか、あるいは独自のデジタルツイン戦略を構築するか、戦略的な岐路に立たされていると言える。

6.3 HBM4とサプライチェーンの再編

NVIDIAがHBM4メモリの「唯一の消費者」であるとジェンスン・ファンが述べたことは、半導体サプライチェーンにおけるNVIDIAの支配力を如実に示している。最先端メモリの供給を独占することで、競合他社(AMD、Intel)が同等性能のシステムを構築することを物理的に困難にしている。これは技術的な堀(Moat)であると同時に、サプライチェーン上の堀でもある。SamsungやSK Hynixといったメモリメーカーは、NVIDIAという単一の巨大顧客に運命を託す形となり、両者の相互依存関係はかつてないほど深まっている。

7. 結論

CES 2026は、AIが「画面の中の魔法」から「現実を動かす力」へと変貌を遂げたことを確認する場であった。NVIDIAの「Vera Rubin」は、その物理AIを動かすための強靱な心臓部を提供し、Siemensの「Digital Twin Composer」は、その力を産業現場に実装するための神経系を提供した。

両社の提携は、単なる企業の枠を超え、デジタルとフィジカル、ITとOTを融合させる産業革命のエンジンとなっている。市場は短期的には慎重な反応を見せているが、提示された技術の進歩と、PepsiCoなどの早期導入企業が示した具体的な成果は、この変革が不可逆であることを証明している。2026年は、物理AIが本格的に社会実装され、私たちの生活や産業のあり方を根底から変え始める「物理AI元年」として、後世に記憶されることになるだろう。

引用文献

1. NVIDIA CES 2026 Keynote Live Coverage - ServeTheHome, 1月 10, 2026にアクセス、<https://www.servethehome.com/nvidia-ces-2026-keynote-live-coverage/>
2. Nvidia CEO confirms Vera Rubin NVL72 is now in production, 1月 10, 2026にアクセス、<https://www.tomshardware.com/tech-industry/artificial-intelligence/nvidia-ceo-confirms-vera-rubin-nvl72-is-now-in-production-jensen-huang-uses-ces-keynote-to-announce-the-milestone>
3. A look at the new technology announced on Day 1 of CES 2026 - PBS, 1月 10, 2026にアクセス、<https://www.pbs.org/newshour/economy/a-look-at-the-new-technology-announced-on-day-1-of-ces-2026>
4. Siemens Unveils Digital Twin Composer CES 2026 - Hiverlab, 1月 10, 2026にアクセス、<https://hiverlab.com/siemens-unveils-digital-twin-composer-ces-2026/>
5. PepsiCo, Siemens, Nvidia Partner on AI Modernization Via Digital ..., 1月 10, 2026にアクセス、<https://www.morningstar.com/news/dow-jones/202601065117/pepisco-siemens-nvidia-partner-on-ai-modernization-via-digital-twins>
6. Siemens | SIE - Stock Price | Live Quote | Historical Chart, 1月 10, 2026にアクセス、<https://tradingeconomics.com/sie:gr>
7. CES 2026 recap: Morgan Stanley flags 'skyrocketing' AI demand, 1月 10, 2026にアクセス、<https://www.investing.com/news/stock-market-news/ces-recap-morgan-stanley-flags-skyrocketing-ai-demand-4431934>
8. Nvidia Gains Strong Wall Street Backing After CES AI Showcase, 1月 10, 2026にアクセス、<https://stocktwits.com/news-articles/markets/equity/nvidia-gains-strong-wall-street-backing-after-ces-ai-showcase/cmwxw01R4T8>
9. CES 2026 Opens: Siemens, Lenovo and a Show Floor Full of AI ..., 1月 10, 2026にアクセス、<https://www.asiabiztoday.com/2026/01/07/ces-2026-opens-siemens-lenovo-and-a-show-floor-full-of-ai-signal-whats-next-in-tech/>

10. CES 2026: Nvidia confirms Rubin AI chips in production, eyes cloud rollout, China demand and autonomous vehicles, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.livemint.com/technology/tech-news/ces-2026-nvidia-confirms-rubin-ai-chips-in-production-eyes-cloud-rollout-china-demand-and-autonomous-vehicles-11767691462745.html>
11. NVIDIA Kicks Off the Next Generation of AI With Rubin, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://nvidianews.nvidia.com/news/rubin-platform-ai-supercomputer>
12. NVIDIA Launches Next-Generation Rubin AI Compute Platform at ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.servethehome.com/nvidia-launches-next-generation-rubin-ai-compute-platform-at-ces-2026/>
13. Nvidia Blackwell successor Rubin releases in 2026 - Techzine Global, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.techzine.eu/news/infrastructure/137668/nvidia-blackwell-successor-rubin-releases-in-2026-significant-performance-boost/>
14. After 'surprise car announcement', Nvidia CEO Jensen Huang meets CEOs of Mercedes and Hyundai, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/after-surprise-car-announcement-nvidia-ceo-jensen-huang-meets-ceos-of-mercedes-and-hyundai/articleshow/126395773.cms>
15. Nvidia Unveils DLSS 4.5 at CES 2026 - Université de Tours, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.univ-tours.fr/annuaire/m-jean-philippe-lafontaine?y-news-24631296-2026-01-08-nvidia-unveils-dlss-45-at-ces-2026-major-upgrades-for-gaming>
16. CES 2026: Nvidia Unveils DLSS 4.5, New RTX Integrations and G ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.gamesmarket.global/ces-2026-nvidia-unveils-dlss-4-5-new-rtx-integrations-and-g-sync-pulsar-monitors/>
17. NVIDIA unveils DLSS 4.5 at CES 2026 with 6X frame boost for RTX 50 series GPUs, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.livemint.com/gadgets-and-appliances/nvidia-unveils-dlss-4-5-at-ces-2026-with-6x-frame-boost-for-rtx-50-series-gpus-11767694873203.html>
18. Nvidia announces DLSS 4.5 at CES - but will it be enough to silence ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.techradar.com/tech-events/nvidia-announces-dlss-4-5-at-ces-but-will-it-be-enough-to-silence-the-fake-frames-haters>
19. Nvidia G-Sync Pulsar aims to transform 360Hz monitors to look like ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.club386.com/nvidia-g-sync-pulsar-aims-to-transform-360hz-monitors-to-look-like-1000hz-instead/>
20. CES 2026: Day One Highlights – Innovation, Accessibility and ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.ces.tech/articles/ces-2026-day-one-highlights-innovation-accessibility-and-community/>
21. Siemens and NVIDIA Expand Partnership to Build the Industrial AI ..., 1月 10, 2026にアクセス、

- <https://nvidianews.nvidia.com/news/siemens-and-nvidia-expand-partnership-industrial-ai-operating-system>
22. NVIDIA, SiemensExpand Partnership to Build Industrial AI Operating ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.digitalengineering247.com/article/nvidia-siemensexpend-partnership-to-build-industrial-ai-operating-system>
 23. CEO Busch Unveils Industrial AI Push With NVIDIA, Microsoft, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.marketbeat.com/instant-alerts/siemens-aktiengesellschaft-at-ces-2026-ceo-busch-unveils-industrial-ai-push-with-nvidia-microsoft-2026-01-07/>
 24. Siemens Unveils Tech to Accelerate the Industrial AI Revolution at ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.hpcwire.com/off-the-wire/siemens-unveils-tech-to-accelerate-the-industrial-ai-revolution-at-ces-2026/>
 25. PepsiCo Announces Industry-First AI and Digital Twin Collaboration ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.prnewswire.com/news-releases/pepsico-announces-industry-first-ai-and-digital-twin-collaboration-with-siemens-and-nvidia-302653851.html>
 26. Siemens unveils technologies to accelerate the industrial AI ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://press.siemens.com/global/en/pressrelease/siemens-unveils-technologies-accelerate-industrial-ai-revolution-ces-2026>
 27. NVIDIA Corporation Common Stock (NVDA) Historical Data - Nasdaq, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.nasdaq.com/market-activity/stocks/nvda/historical>
 28. The "Physical AI" Pivot: CES 2026 Unleashes Agents and ... - Markets, 1月 10, 2026にアクセス、
<http://markets.chroniclejournal.com/chroniclejournal/article/marketminute-2026-1-7-the-physical-ai-pivot-ces-2026-unleashes-agents-and-humanoids-but-wall-street-remains-cautious>
 29. Morgan Stanley reveals eye-popping price target on Nvidia stock, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.thestreet.com/investing/stocks/morgan-stanley-drops-eye-popping-price-target-on-nvidia-stock>
 30. The Official 'Best of CES' 2026 Award Winners Were Announced ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://au.lifehacker.com/tech/117151/news/the-official-best-of-ces-2026-award-winners-were-announced-featuring-22-remarkable-advances-in-techn>
 31. Engadget's best of CES 2026: All the new tech that caught our eye in ..., 1月 10, 2026にアクセス、
<https://www.engadget.com/engadgets-best-of-ces-2026-all-the-new-tech-that-caught-our-eye-in-las-vegas-200057123.html>
 32. Siemens expands digital twin, AI platforms for energy operators, 1月 10, 2026にアクセス、
<https://worldoil.com/news/2026/1/7/siemens-expands-digital-twin-ai-platforms-for-energy-operators/>